

# 平成20年度第3回 地域密着型指定専門委員会 会議要旨

## 1 議題

(1) 第二次北九州市高齢者支援計画について

## 2 開催日時

平成20年10月1日(水) 19:00~21:00

## 3 開催場所

北九州市役所 91会議室

## 4 出席者名

委員 舟谷委員長、高田副委員長、富安委員、中村委員

事務局 保健福祉局：介護保険・健康づくり担当部長、事業者支援担当課長、  
ほか 計8名

## 5 議事の概要

(1) 事務局より説明

当委員会で検討していただきたいこと

今後の検討スケジュール

第3期整備計画の実施状況

第4期計画における認定者・利用見込み量

待機者数、施設利用状況等

検討項目と課題を踏まえた検討の視点

(2) 討議内容

委員長：第3期介護保険事業計画の施設整備目標数が達成できなかったことについて、市議会で質問が出たようだが、事業者の選定にあたって委員会としてはいい加減な審査はしたくない。この姿勢はくずしたくない。

地域密着型について国のガイドラインが出ているが、北九州市に合わない部分が多い。そこをどうするのか。そういう議論をしていきたい。

委員：一定の質のレベルはくずしたくない。

委員：今回の計画は平成26年までを見据えたものとしているが、団塊の世代が入ってくる2015年からもっと高齢者が増える。そういうのは予想に入れられないのか。

事務局：当面は4期・5期を見据えて平成26年までの計画である。その後も全く考えないわけではない。

委員：八幡西区の事例だが、デイサービスに通っていたが家でも歩けなくなった。妻は人工肛門、本人が認知症になったので2週間内に入所可能な施設がないかと

いう相談があった。地域包括支援センターにつないでグループホームに連絡するも気にいったところがない。最近認知症専門の有料老人ホームができたが月額17万円と高い。

せっかく認知症の通所ができたのに泊まりができない。他のところを探す、馴染みの関係ができないので、認知症デイサービスにショートステイがあればいいのだが。

委員：認知症の割合は北欧と比べて高い。食べ物の関係もあるのか。(生活習慣病) これまでのペースで認知症割合が増えるとは思わない。今困っている現状をどうするかを重要視すべきではないか。現時点での介護の質を上げて発生率を抑えることが大事。質の低い施設を作ると重度化する。

健康であるけど一人暮らしの高齢者に対し、共同生活ができる場所などを増やしては。少し具合が悪くなった人を周りがフォローするというようなことも踏まえて総合的な施設整備を考えるべき。

大型の特養についての問題点はいろいろと見えてきたので、今更そこに後戻りすることはやめてほしい。

委員長：地域密着型を北九州市にどう根付かせるか。今までは定員29名の小規模特養という独立型、それが望ましいと思っていたが、既存の介護事業者を活用し、複合型施設を立地するとか、今ない北区と西区で検討することも重要である。

事務局：今期、小規模特養は、サテライト3ヶ所、単独型2ヶ所の整備を行った。サテライトでも小規模はきびしいと聞いている。増設とかであればまた違うと思うが。

委員長：グループホームの1ユニット9人の根拠は？

委員：職員の目の届く限度ではないか。

委員長：2ユニットというのはメリットがあるのでは。

既存施設の増員・増床を認めるというのも一つの策か。

小規模多機能型居宅介護事業所の周知がなされていない。PR不足か。それともPRしてもいやがられているのか。

委員：本当に入りたい人の数とかは把握してないのか。それが必要。

委員：小規模多機能型居宅介護事業所はそこだけで完結型。囲い込みの危険性がある。視察に行った事業所は開放的で良かった。夜間の訪問介護にどれだけ取り組むかも重要。

委員長：小規模多機能の利用者のモニタリングをしてもらいたい。若しくは、利用者の多い事業者(成功例)と少ない事業者に意見聴取してもらいたい。

委員：志ある事業者を前もって育てていくという先行投資的な考え方が必要。

委員：公募で落ちたところに再度挑戦するかどうかを聞いてみるのもいいのでは。

事務局：グループホームで言えば、6~7の事業所を集めて地域包括支援センターの保健師がリーダーシップをとって勉強会をしているところもある。

委員長：事業者連絡会で情報を得ることも大事。

委員：事業者養成講座のようなものが必要。

やってみたいけど、どうやったらいいのかわからないとい人がたくさんいる。

委員長：家族の会の相談会に事業者代表を同席してもらおうのもいい策。

既存の事業所に入って症例検討会を行うなどの試みで参入予定者のレベルアップを図ることもいい策。

質の向上という視点で考えれば、高齢者支援に加え事業者支援という方策を考えるのもいいのかと思う。

事務局：第3期の整備計画を踏まえつつ、それに加え第4期の整備方針の方向性という視点でのご意見をいただきたい。

施設整備を小規模に限定すると、3期と同じように4期も整備目標達成がむずかしいかもしれない。例えば特養29人定員を70人とか100人にするとかの策もあるかと思う。100人といっても個室型の1ユニット10人とかであるが。

委員：先ほど大規模特養について否定的な意見を出したが、1ユニット10人というような整備であれば理解できるので、大規模であっても反対はしない。

事務局：小規模特養＋小規模多機能＋グループホーム2ユニットとか、また、北九州市らしさということから言えば、＋サロンのものとかも考えられると思う。

委員長：組み合わせはいろいろ考えられるが、高齢者はその時々で困ったことが変わるので、いろいろなものがあるというのはすごくいいことだと思う。北九州らしさということで計画案として出してもいいのでは。

事務局：3期の地域密着型の考え方が間違いということではなかったと思うので、そのいいところはバージョンアップさせていくということになるかと思う。

委員：施設等の介護職員をいい施設に短期留学させてレベルアップさせ、新たな開設に結びつけるということも必要。

委員：公募に落ちたところの追跡調査をやってもらいたい。現在落ちた理由は教えてないが、ヒントとして勉強する方法くらい教えてあげれば、また新たな参入に結びつくのかと思う。